

第四十一回帝國議會
衆議院

大正六年法律第六號中改正法律案委員會會議錄(速記)第三回

會議

大正八年二月十九日午後一時二十五分開議

出席委員左ノ如シ

漆 昌巖君 神川 長久君 八田 宗吉君
大森與三次君 尾崎元次郎君 村松恆一郎君
出席政府委員左ノ如シ

大藏省主計局長 西野 元君
陸軍次官 山梨 半造君
海軍次官 柄内會次郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ
陸軍省人事局課員陸軍歩兵中佐 安藤紀三郎君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

大正六年法律第六號中改正法律案

○委員長(漆昌巖君) ソレデハ大正六年法律第六號中改正法律案ノ委員會ヲ開會致シマス

○政府委員(西野元君) 先般當委員會ニ於テ皆様ノ御希望モアリマシタノデ、殊ニ高木サン等ヨリモ熱心ニ御質問ガアリマシテ、是非大藏大臣ノ意嚮ヲモ述ベテ貫ヒタイト云フコトデゴザイマシタ、ソコデ大藏省デハ協議ヲ遂ゲマシテ、大臣ノ意見ヲ伺ヒマシテ私ハ今日出席致シタ譯デゴザイマス、皆様ハ斯クマデ軍人恩給法ノ事ニ付テ御同情下サルコトハ、非常ニ本懷ニ存ジマス次第デゴザイマス、此事ニ就キマシテハ、政府ニ於テモ最初ヨリ種々心配致シマシテ攻究シタ次第デゴザイマス、殊ニ陸海軍ヨリハ、成ルベキコトナラバ、是非本年ノ一月一日ヨリ之ヲ施行シテ貫ヒタイト云フ希望モゴザイマシタ、元來御承知ノヤウニ五箇年ニ分テ之ヲ施行スルト云フコトハ、財政上ノ都合ヨリ已ムヲ得ズ斯ウ云フ手段ヲ執ツタ次第デゴザイマス、目下ノ狀況ニ照シテ之ヲ繰上ケルト云フコトニ付テハ、大藏省トシテハ、少ナカラズ財源ノ都合ヨリ致シマシテ、ヤツドウニカ歳入歳出ノ突合セテ致シマシテ、本案ヲ提出スルダケニ運ビマシテ、來年度豫算ノ計畫ヲ立テタ次第デゴザイマス、此際之ヲ復タ三箇月間過テ實行スルト云フコトニ就テハ、相當ノ財源ヲ要スル次第デゴザイマス、國費多端ノ際デアリマスカラ、此上又繰合フ付ケルコトハ、各種ノ問題ガソレノ權衡ヲ得テ豫算計畫ヲ立テタ今日、甚ダ困難トスル事情モゴザイマスガ、是等恩給者ノ利害關係ヲ考慮致シマスレバ、一刻モ早ク施行スルト云フコトハ、其等ノ人ニ對シテ幸福ト考ヘマステレドモ、政府ハ財政ノ上カラ大ニ考慮ヲ加ヘナケレバナラ

ヌ次第デゴザイマスカラ、先ヅ法律ノ發布ニナツタ其翌月ヨリ之ヲ施行スルト云フコトニナツタナラバ、大體ニ於テ、是等ノ人ノ救済ノ目的ヲ達スル譯デアリマス、又政府ノ財政ト致シマシテモ、此邊ノ支出ニ止メタイト云フ希望ヲ以テマシテ、成ベク原案ノ通り皆様ノ御協賛ヲ經ルコトニ是非御願ヲスルヤウニト云フ、大藏大臣ノ意見デゴザイマス、此點ヲ私カラ一應申上ゲマス、ドウカ原案通り御賛成下サイマスヤウ切ニ希望致シマス

○委員長(漆昌巖君) 陸軍省海軍省ノ政府委員ノ方ハ、之ヲモウナント妥協ノ途デアリサウナモデスガ……

○政府委員(柄内會次郎君) 海軍省ト致シマシテハ、陸軍トハ無論十分ノ研究ヲ致シマシテサウシテ大藏省トモ漸ク是ダケニ話ガ運シタノデゴザイマスカラ、此原案通り此處御決メテ願ヒタイト云フコト以上ニ、御願スル事ハゴザイマセヌ

○政府委員(山梨半造君) 陸軍モ同様デゴザイマス

○八田宗吉君 此五十萬圓ノ金額ハ頗ル多額ノヤウデゴザイマスステレドモ、之ヲ各種ノ階級ニ割當テタル金額ヲ、一寸洩間キマスル所ニ依リマスルコト云フト、一個人ニ取テ極ク下ノ方ノ上等兵卒ニナルト云フト、非常ニ僅カデアルト云フコトデアリマス、ソレデ此點ニ就テハ、全國カラ非常ニ澤山ノ請願モ出テ居リマスシ、又今日ノ恩給制度ノ金額ハ、確ニ今日ノ時價ニ比シテ非常ニ安イモノデアル、恩給ノ價格ハ全般ニ之ヲ高メテ行カナケレバナラナイ時機デアラウト考ヘテ居ル、政府ハドウ云フ風ニ思フテ居ルカ分ラナイケレドモ、確ニ恩給金額ハ物價ノ安イ當時ニ決定シタモノデ、官吏ニハ今増俸ヲ與ヘテ居ルト云フ斯ウ云フ場合デアルカラ、恩給額モ隨テ物價ニ相當スル程度マデ高メナケレバナラヌ、此場合ニ當テ一月一日ヨリ是非ヤツデ貫ヒタイト云フ請願ガ非常ニ澤山出テ居ルノデアリマス、而モ其金額タルヤ、極ク下ノ方ハ僅カデアルト云フ狀況デアルト聞イテ居マスガ、其邊ノ調ハドウ云フ風ニナツテ居リマスガ、即チ佐官階級ノ者ハ、ドウ云フ額デアアルコト云フコトヲ一ツ御聽スルノト、モウ一ツ僅カノコトデアリマスカラ、私共與ヘタイト云フ誠意ヲ以テ御尋スルノデアリマスガ、其御調ニナツタ程度ヲ承テ、更ニ修正等ニ對スル吾等ノ研究ヲ盡シテ見タイト思フテ居リマス、ソレデ政府ニ於テモ、現在ノ恩給額ハ安イモノデアルト云フコトヲ認メテ、將來之ヲ高メル希望ヲ持テ居ルノデアアルカドウカ御聽スルト同時ニ、調査ノ材料ヲ拜見シ

タイト思フテ居リマス

○政府委員(西野元君) 唯今御質問ノ一部分ニ就キマシテ私カラ御答致シマス、唯今御話ノ如ク、現在ノ恩給ノ率ハ文武官ヲ通ジマシテ少イト云フコトハ、政府ニ於キマシテモ考ヘテ居リマス、何トカ之ヲ増加スル途ヲ講ジタイト云フ希望ヲ持テ居リマスガ、是ニ就キマシテハ、前回私ヨリ申上ゲマシタ通り相當調査ヲ要シマスルシ、又多額ノ財源ヲ要シマスル次第デアリマスカラ、今俄ニ提案スル運ビニハ相成リ兼ねマスルガ、大體ニ於キマシテハ、政府ニ於テモ其恩給率ガ菲薄デアッテ、時勢ニ適合シナイ憾ガアルト云フコトハ十分考ヘテ居リマス、併ナガラ恩給制度其ノモノヲサウ云フ風ニ變ヘルト云フコトハ、根本ノ改正問題デアッテ、唯今問題ニナツテ居ル陸海軍ノソレトハ別問題デアリマスカラ、御尋ニ對シテハ、唯、サウ云フ考ヲ持テ居ルト云フコトヲ御答致シテ置キマス、尙又階級ニ對シテハ如何ヤウニナツテ居ルコト云フコトニ就テハ、陸海軍次官ヨリ御答ガアラウト思ヒマス

○政府委員(山梨半造君) ソレデハ安藤中佐カラ御答サセマス

○陸軍中佐安藤紀三郎君 茲ニ斯ウシテ表ヲ拵ヘテ居リマス表面ノ所ニ、新舊恩給ノ種類ト現行額ニ對スル差額ヲ舉ゲテ置キマシタカラ、之ヲ御覽下サレバ、唯今ノ御質問ハ分ララウト思ヒマス、一番始めニ出シテ御坐イマスノガ、准士官以上ノ恩給額新舊對照表デアリマス、此表面ニ現レテ居リマスヤウニ、准士官以上ノ恩給額ハ實際ノ受給者ノ上カラ見マシテ、今日デハ二種類シカゴザイマセヌ、詰マリ四十四年ノ改正以前ノ法律ニ依テ受ケテ居ル恩給額ト、四十四年ニ改正ニナリマシタ其後ニ於テ受ケテ居ルモノノ二種類デアリマス、其差額ハ朱書シテアリマスヤウニ、大將三百圓、中將二百圓、ズツト終リニ行キマシテ准士官ハ三十圓、是ガ新舊恩給年額ノ差額デアリマス、言ヒ換ヘマスルト云フト、准士官以上ノ恩給額ト云フモノハ、明治十六年カラ四十四年マデハ同一額デアッテ來マシタ、斯ウ云フ内容デアリマス、今度ノ法律案デ參リマスルト、大正八年ノ一月カラ三月盡日マデニ給シマスル三月份ノ金ハ、此所ニ舉ゲテアリマスル朱書ノ金額ノ三十二分ノ一ト云フコトニナツテ居リマスノデ、其三十二分ノ一ノ金ヲ假リニ申シマスルト、其表ノ一番左ニアリマスル准士官ノ新舊差額ハ三十圓デアリマスカラ、其三十二分ノ一デ九十三錢トナル、斯

ウ云フ譯デアリマス、其數字ハ舉ゲテゴザイマセヌガ、其
次ニ下士以下ノ恩給額新舊對照表ハ、是モ同様デアリマ
シテ、下士以下ノ恩給ノ方ハ、准士官以上ノ恩給ト違ヒマ
シテ、途中ニ二三回ノ増額改正ガアリマス、隨テ現ニ受ケ
テ居リマスル恩給ノ種類ト云フモノガ多ク、デアリマス、九
年ノ太政官達ノ恩給令ニ依テ居ルモノハ、一番上ニ舉ゲテ
アル額デアリマス、其次ニ十六年達ノ恩給令ニ依テ受ケテ
居ル者ハ、此所ニ現シマシタ金額デアリマス、即チ二十三
年法律ノ恩給法ニ依ルモノト、三十七年ノ軍人恩給法改
正ニ依テ受ケテ居ルモノト現行額トデアリマスガ、實際九年
達恩給令ニ依テ恩給ヲ受ケテ居ル者ハ今日デハ一人モ居
リマセヌ、又十六年ノ達恩給令ニ依テ居ル者ト、二十三年
法律軍人恩給法ニ依テ居ル者トハ同額デアリマスカラ、結局
此下士以下ノ恩給ハ現行額ヲ入レマシテ、三種額ト云フコ
トニナツテ居リマス、更ニ内容ヲ嚙碎イテ申シマス、三十
七年以前ノ恩給ヲ受ケテ居テ者ト、三十七年以後四十
四年マデノ間ニ、恩給ヲ受ケテ居リマシタ者トノ間ニ、約五
割ノ差ガアル、大抵表面デ差額ノ景況ハ御分リニナルダラ
ウト思ヒマス、其次ノ准士官以上ノ遺族扶助料額ハ遺族
族扶助料額ハ大體三種額アリマシテ、戦死戦傷死者ノ遺族
ト、ソレカラ公傷病死者ノ遺族、普通受恩給者ノ遺族扶
助料ト大體制度ガ三ツニ分レテ居リマス、其中デ一番上ノ
戦死戦傷死者ノ遺族ノ扶助料ガ、現在ハ二種類ニナツテ
居リマス、即チ明治二十七八年戦役及三十七八年戦役
此當時ノ戦死者ノ遺族ガ受ケテ居リマスル扶助料額ハ同様
デアリマスガ、ソレカラ詰リ四十四年以前ノ戦死戦傷死者ノ
遺族デアリマス、ソレカラ其下ノ大正三四年戦役ト書イテ
アリマスノハ、四十四年以後ノ戦死戦傷死者ノ遺族ノ受
ケテ居ル恩給額デ、要スルニ二種類デ、次ニ公傷病死者ノ
此遺族扶助料ハ、一番上ニ書キマシタ、九年ノ太政官達遺
族扶助料額ト、ソレカラ其下ニ書キマシタ十六年達恩給
令ト、モウ一ツ下ノ二十三年制定ト云フ此ノ二ツハ同額デ
アリマシテ、是ガ四十四年以前ノ方デアリマス、一番下ノ軍
人恩給法ノ現行額ト云フノハ、四十四年以後ノ分デ、公
傷病死者ノ扶助料ハ現在三種額ニナツテ居ル一番下ノ受
恩給者及服役十一年ノ普通死亡者ノ遺族扶助料ハ、其
上欄ノ公傷病死者ノ分ト同様三種額ニ額ガ分レテ居リマ
ス、デ今申シマシタ中ノ准士官トアリマスル所ノ、一番下ノ
現行額トノ差額ノ一番少ナイ額ハ十圓ト書イテアリマス、此
額ノ八分ノ一、即チ大正八年ノ一月一日カラ大正八年ノ
三月三十一日マデニ給スルコトナリマス、八分ノ一ノ額
即チ此三箇月間ニ受ケマス准士官ノ額ハ一圓二十五錢位
ニナリマス、一番下ノ表ハ准士官以上ノ遺族扶助料ヨリモ

煩雜ニナツテ居リマス、戦死戦傷死者ノ扶助料額ハ現在三
種類ニナツテ居リマシテ、明治二十七八年戦役ト書イテアリ
マスガ、三十七年以前ノモノハ、皆ナ此額デゴザイマス、ソ
レカラ其下ノ三十七八年戦役トアリマスノハ、三十七年以
後四十四年以前ニ受ケテ居ル額デアリマス、ソレカラ其下
ノ大正三四年戦役トアリマスノハ、四十四年以後ノ死亡
者ノ遺族ノ受ケテ居ル扶助料額デ、要スルニ三種額アリマ
ス、公傷病死者ノ遺族扶助料ハ三種額ニナツテ居リマス、
一番上ニ書キマシタ八年ノ太政官達ノ扶助料ト、其下ノ
九年ノ太政官達ノ扶助料ヲ受ケテ居ル者ノ、ソレカラ十六
年達ノ恩給令ト云ヒマスノハ、十六年以後三十七年以前
ニ死ニマシタ者ノ遺族ガ受ケテ居ル額デアリマス、其下ノ三
十七年ノ所ハ、三十七年以後四十四年以前ノ者ガ受ケテ
居ル額デアリマス、一番下ノ方現行額ト云フ四十四年以後デア
リマス、合計五種類ノ區別ガアリマス、ソレカラ一番下ノ欄
ノ受恩給者及十一年ノ普通病死者ハ、是ハ四種類ニナツ
テ居リマシテ、九年ノ太政官達ニ依ル扶助料、十六年達恩給
令、是ガ三十七年以前ノ改正トアルノハ、三十七年以後四
十四年以前ノ間ニ於ケル扶助料額デ、一番下ノ方其以後ノ
扶助料額デアリマス、此下士以下ノ扶助料額ノ中デ、陸軍
ノ最下級ノ兵卒ニ等卒ノ扶助料額ノ差額ガ一番少ナイノ
ガ、三圓デアリマスカラ、表ノ一番下ニアリマス三圓ガ、一番
差額ノ少ナイノデアリマス、三圓ト云フ額ハ改正法律案ニ
依リマシテ、大正八年一月一日カラ同年三月末日マデニ
給スル額ガ五十錢ニナリマス、其以外ニ何カ御不審ガアリ
マスナラ御尋テ願ヒマス、

○八田宗吉君 是デ大體ノ區別ハ分リマシタガ、此新舊
對照表ニ依ッテ、此五十萬圓ヲ一月一日カラ給スレバ、其
金額ヲ更ニ分別シテ、詰マリ准士官以上ノ者ニハ幾ラノ金
額ニナリマス、ソレ以下ノ者ハ五十萬圓ノ内幾ラニナリマ
スカ、斯ウ云フ金額ノ内譯ヲ承知シタイト思ヒマス

○陸軍中佐安藤紀三郎君 先ヅ最初ニ此全體ノ増加額
ト云フモノガ、准士官以上ト下士以下トニ對シテ、如何ナル
割合カト云フコトヲ一寸申上ゲマス、大正八年ノ増加額
ハ、約二百萬圓ト云フコトニナツテ居リマスカ、ソレノ内譯ヲ
大體ニ計算シテ見マスルト、人員ニ於キマシテハ、准士官以
上ノ人員ト云フモノハ七分七厘ヲ占メテ居ル、下士以下ノ
人員ガ九割二分二厘、詰マリ恩典ニ預ル人員ノ割合、ソレ
カラ金額ノ方カラ見マスルト、准士官以上ノ爲メノ所要金
額ハ、全體ノ所要額ノ三割六分六厘下士以下ノ爲メニハ
全體ノ六割三分四厘、斯ウ云フ割合ニナツテ居リマスカラ、
唯今ノ五十萬圓モ比率ニ於テハ此割合ニ御承知下サレマ

シカラ分ルト思ヒマス

○八田宗吉君 更ニ遺族扶助料ノ方ハドウ云フコトニナ
テ居リマス

○陸軍中佐安藤紀三郎君 金額ニ就テ先ヅ割合ヲ申シ
マス、扶助料ノ中デ下士以下ノ遺族扶助料ノ爲メニ要シ
マスル額ガ、總額ノ一割四分五厘、准士官以上ノ遺族ノ
爲メニ一割一分五厘、下士以下ノ生存者ノ恩給ノ爲メニ
四割八分九厘、准士官以上ノ生存シテ居リマス者ノ恩給
ノ爲メニ、二割五分一厘ト云フ割合デゴザイマス

○村松恒一郎君 極ク簡單ナ事デアリマスガ、此改正ノ
恩給ニ浴スベキ者デ、最近ニ死亡者ノ數ガ准士官以上デ
ハ一箇年ドノ位ニナツテ居リマスカ、又下士以下デハドノ位
ニナツテ居リマスカ、最近ノ年々ノ統計ガ分ッテ居リマシタラ
伺ヒタイ

○陸軍中佐安藤紀三郎君 是ハ四十四年四月一日カラ
大正五年三月末日ニ至リマスル、五箇年間ノ減耗統計ヲ
見タノデアリマスガ、一箇年間ノ平均減耗人員ヲ申シマス
ト、下士以下遺族扶助料ハ約千四百八十名、准士官以
上ノ遺族デハ八十四名、下士以下ノ生存者ノ中デハ約六百
名、准士官以上ノ生存者デハ六百六十名、陸海軍合計致シ
マシタ一箇年ノ平均減耗人員ハ、二千三百二十四人デア
リマス

○村松恒一郎君 是ハ私が前回ニ缺席致シマシタノデ、
既ニ政府カラ御説明ニナツタコトモ思ヒマスガ、マダ速記録
ヲ拜見スル暇モアリマセヌガ、今回ノ法律デ大正八年ノ四
月一日カラト云フコトニ致サレマシタノハ、詰マリ金額ノ點
カラ同様ニ致サレタノデアリマスカ、或ハ手續上此方ガ手
數ガ少イトカ云フノデ、所謂法規上ノ關係カラ四月一日カ
ラト云フコトニ致シマシタノデアリマセウカ伺ヒタイ

○政府委員(西野元君) 前回ニモ御尋ガアリマシテ御答
致シマシタガ、唯今御質問ノ兩方ノ理由ニ依リマスノデ、財
政上カラ申シマシテモ、斯ク一時ニ多額ノ支出ヲスルコトハ
困難デゴザイマスノデ、又救済スルニ致シマシテモ、是ハ法
律公布後ニ於テ、ソレダケノ供給ヲスルコトニシタ方ガ穩當
デアラウト、兩方ノ理由ガ合致致シマシテモ、ドナラニ致シ
マシテモ、其方ガ唯今ノ所相當デアラウト云フノデ提案致
シマシタノデアリマス

○村松恒一郎君 是モ重複ニナツテ居ルカ知リマセヌガ、
今度ハ陸海軍ノ當局者ニ御尋致シマス、陸海軍トシマシテ
ハ、四月一日カラト云フ方ガ手續ヲ爲サル上ニ便利デアリ
マスノデスカ、是ハ大正八年一月カラドシテモ、手數ノ上ニ
於テ煩雜ハナイノデアリマスカ、又大正八年一月カラト
シタ方ガ、寧ロ手續ガ簡便デアルト云フコトガアルノデアリ

マセウカ、伺ヒタイ

○政府委員(板内會次郎君) 手續ノ煩雜如何ノ問題ハ少シモ厭フ所デゴザイマセウガ、唯今四月一日カラト申シマシタノハ、政府ノ總テノ關係ガ此方ガ宜シイト云フノデ、斯ウ定タノデアリマス

○村松恆一郎君 恩給ヲ早ク下付スルト云フ點カラ申シマス、下付ガ便利ナノデアリマセウカ

○政府委員(板内會次郎君) 早クト申シマス...

○村松恆一郎君 手續ヲ早ク運ビマシテ、早ク恩給ヲ渡ス所ノ手續ガ出來ルノハ、四月一日トシタ方ガ便利ナノデアリマセウカ、或ハ一月カラトシタ方ガ便利ナノデアリマセウカ

○政府委員(板内會次郎君) ソレハ四月一日カラトシタ方ガ總テノ點ニ於テ都合デアリマス

○八田宗吉君 今海軍次官ノ御答ニ依ルト、總テノ上ニ便利ト云フ御話ガアリマシタガ、吾々ノ間ク所ニ依リマス、一月一日カラ與ヘナイ爲メニ、非常ニ恩給證書ナドヲ訂正シナケレバナラス、手數ガアルシク聞イテ居リマスガ、今ノ御話ハ事實ト遠ザカテ居ルカト思ヒマス、恩給ヲ受ケル者カラ申シマシテモ、當局者ガ取扱フ上カラ申シマシテモ、又例ヘバ郵便局ナド恩給ヲ渡ス場所ニ於キマシテモ、僅カノ爲メニ非常ナル手數煩雜ヲ極メルコトハ、歷々トシテ居ルヤウニ承知シテ居リマス

○政府委員(板内會次郎君) 陸軍ノ御方カラ一ツ御答ヲ願ヒマス

○陸軍中佐安藤紀三郎君 御答致シマスガ、是ハ唯今海軍次官カラ御答ニナリマシタ通り、手數ガ掛ルカラ、證書ヲ發行スル時日ガ非常ニ後レルト云フ考ハ持テ居リマセヌ、是ハ豫メ申シテ置キマス併シ取扱者ノ手數ト云フ點カラ考ヘマス、爲替貯金局ニ於キマシテモ、陸海軍省ニ於キマシテモ、或ハ内閣恩給局ニ於キマシテモ、手數ハ餘計掛ルドラウト想像シテ居リマス

○八田宗吉君 私ハソレデ満足シテ居ルハ、實地ニ於テハ必ズサウナルト思ヒマス、證書ノ訂正、郵便局ノ取扱ハ非常ニ誤リヲ來シテ、様々ニスルコトガ非常ニ多イドラウト思フ、年額ノ何分ノ一トカ何トカ云フ、複雑ノ規定ノ下ニ受取ルト云フコトニナリマス、確ニサウドラウト思ヒマス

○村松恆一郎君 モウ意見ヲ述ベテ宜シウゴザイマスガ

○八田宗吉君 今日ハ質問ダケニ致シマシテ、意見ハモウ少シ延ベテ頂戴致シタイト思ヒマス、此次アタリニ決定致シタイ、私共大ニ之ニ就キマシテハ、修正ノ餘地アリト信ジテ居リマスカラ、出來得ルナラバ、是非モウ少シ努力致シテ各方面ニ調査ヲ盡シテ、此次ニ討論ヲ願ヒタイト思ヒマス

○委員長(漆昌巖君) 質問ハドウデセウ...

(速記中止)

○委員長(漆昌巖君) ソレデハ今日ハ是デ散會致シマス、次回ハ二十四日ノ午後二開クコトニ致シマス

午後二時十一分散會

大正八年二月二十三日印刷

大正八年二月二十四日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局